

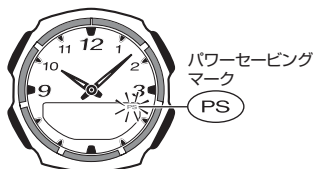
パワーセービング機能について

パワーセービング機能とは、暗いところに放置すると自動的に液晶表示を消してスリープ状態にし、節電する機能です。本機は工場出荷時に「パワーセービング機能」をONに設定してあります。

※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が消えることがあります。

●スリープ状態になるには

- 表示スリープ
午後10時～午前6時の間、暗いところで本機を約1時間放置します。
→液晶表示が消え、パワーセービングマークが点滅します。
アラーム・時報の報音は行ないます。
アナログ針は連針を続けます。
※ストップウォッチモードのときは、スリープ状態になりません。

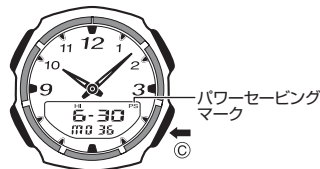


●スリープ状態を解除するには

本機を明るいところに置か、いずれかのボタンを押すか、オートライト(「●ライトを発光させる」)のように傾けたりします。
※本機を明るいところに出した場合は、表示が点灯するまでに最大2秒かかる場合があります。

●パワーセービング機能のON / OFF

時刻モードのとき、ⓐボタンを約2秒間押すごとにパワーセービング機能のON / OFFが切り替わります。
※パワーセービング機能がONのときは、パワーセービングマークが点灯します。
※時刻表示のとき、ⓐボタンを押すと12時間制表示と24時間制表示も切り替わります。



- 機能スリープ
表示スリープのまま暗いところで6～7日間経過します。
→パワーセービングマークが点滅から点灯にかわります。
アラーム・時報の報音は行ないません。
アナログ針は連針を停止します。
※時計機能は正常に作動しています。

机の中などに長期間しまっておくときは、パワーセービング機能をONにしておけば、節電効果があります。

操作のしくみと表示の見方 (本書の表示例では、アナログ部(針)を省略する場合があります。)

Ⓑ ボタンを押すごとに確認音が鳴り、以下の順でモードが切り替わります。
※アラームモード、ハンドセットモードのまま2～3分間すると、自動的に時刻モードに戻ります。

時刻モード

★表示切替について
Ⓐ ボタンを押すごとに表示内容が切り替わります。

<カレンダー表示>

<時刻表示>

★曜日の見方
SU:日 MO:月 TU:火 WE:水
TH:木 FR:金 SA:土

★12/24時間制表示切替について
時刻表示のとき、ⓐボタンを押すごとに12時間制表示(午前はA/午後はPが点灯)と24時間制表示とが切り替わります。

アラームモード

ストップウォッチモード

ハンドセットモード

デュアルタイムモード

電源について

本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して表示しなくなることがあります。安定してご使用いただくために、なるべく光に当たるようにしてお使いください。

二次電池が消耗して時計機能が停止すると（レベル4）、メモリーされているデータや設定データは消去されます。

●リカバーマークが点滅している場合

ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、リカバーマークが点滅して、一時的に以下の操作ができなくなります。

- ライトの点灯
- アラーム・時報などの報音
- アナログ部（針）のセット

この場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。



●バッテリーインジケータの見方

レベル1	HI	すべての機能が使用可能
レベル2	MID または MID	すべての機能が使用可能
レベル3	LO	液晶表示不可、ライト点灯不可、アラーム・時報などの報音不可、運針不可
レベル4	(消灯)	時計発振不可（時計機能停止）

※直射日光下などの強い光で充電した場合、バッテリーインジケータが一時的に実際の電池容量より高いレベルを表示することがあります。レベルは充電後しばらくしてから確認してください。

※ライト点灯や電子音報音後しばらくしてから「MID」が点滅開始するときは、レベル3に近いことを表しています。

※レベル4になっても再度充電を行なうと使用できません。

※レベル4から充電したときは、レベル3になると表示が点灯しますので、時刻・カレンダーを合わせてください。ただし、レベル2またはレベル1になるまで十分に光を当ててから、ご使用ください。

※レベル2に回復すると、針のシンクロ修正が開始されます。

●充電必要サイン

レベル3の状態は、電池残量が極端に少なくなっています。このときは、本機を光に当てて、十分に充電を行なってください。

●充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。

- 炎天下に駐車中の車のダッシュボードの上
 - 白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
 - 直射日光が長く当たって、高温になる所
- なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなることありますが、温度が下がれば正常に戻ります。



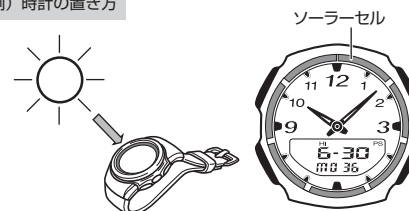
充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようご注意ください。

●充電のしかた

本機のソーラーセル部を光源に向けます。

※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますのでご注意ください。

例) 時計の置き方



※イラストは樹脂バンドの場合です。

●充電の目安

本機は一度フル充電すると、充電しなくても基本動作に加え、下記の条件で使用した場合に約1ヶ月動き続けます。

- 1日あたりの使用量
- ライト：1.5秒間
 - アラーム報音：10秒間
 - 表示点灯：18時間

なお、こまめに充電を行なえば、安定してご使用いただけます。

* 基本動作とは、時計内部の時刻演算処理と針の運針動作のことです。

● 各レベルに回復するための充電時間

環境（照度）	充電時間			
	レベル4 →	レベル3 →	レベル2 →	レベル1
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約46時間	約20時間	約19時間	
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約230時間	約100時間	約93時間	
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	--	約202時間	約189時間	

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

（1日動くのに必要な充電時間）
※左記の条件で使用した場合。

アラーム・時報の使い方

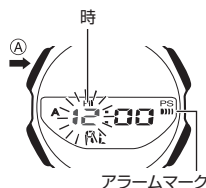
アラームモードでは、時分を設定でき、設定した時刻になると10秒間電子音が鳴ります。また、毎正時（00分）に時報を鳴らすこともできます。

■アラーム時刻のセット

(1) セット状態にする

アラームモードのとき、**A** ボタンを約2秒間押しします

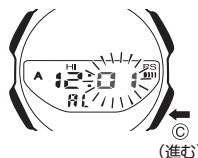
- ⇒ 「時」が点滅します。
- ※ アラームマークが点灯して、自動的にアラームONになります。



(3) 点滅箇所のセット

C ボタンを押しします

- ⇒ **C** ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進みます。
- ※ 押し続けると早送りします。



(2)～(3)の操作を繰り返して、アラーム時刻を合わせます。

※「時」のセットのとき午前（A）／午後（P）、または24時間制にご注意ください。

※基本時刻を24時間制にしているときは、アラーム時刻も自動的に24時間制で表示されます。

(4) セットを終わる

A ボタンを押しします

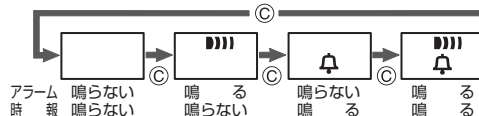
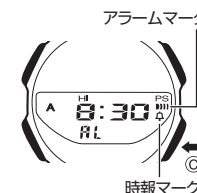
- ⇒ 点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

■アラーム・時報のON/OFF設定

アラームモードのとき、**C** ボタンを押しします

- ⇒ **C** ボタンを押すごとにアラームマークと時報マークが点灯／消灯を繰り返します。
- ※ それぞれのマークが点灯しているときがONとなり、アラーム・時報が鳴ります。



■ 鳴っている電子音を止めるには
いずれかのボタンを押すと音が止まります。

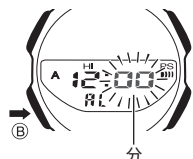
■モニターアラーム

アラームモードのとき、**C** ボタンを押し続けると、押し続けている間アラーム音が鳴ります。

(2) セット箇所を選ぶ

B ボタンを押しします

- ⇒ **B** ボタンを押すごとに点滅箇所が「時」⇄「分」で移動しますので、合わせたい箇所を点滅させます。



ライト点灯について

本機にはLEDライトがついており、暗いときに表示を明るくして見ることができます。また、時計を傾けると暗いときにライトが発光するオートライト機能もあります。

■ ボタンを押して発光させる ～手動発光～

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも、

① ボタンを押します

⇒ ① ボタンを押すとライトが発光します。



※ライトの点灯時間は約1.5秒間と約3秒間のいずれかを選ぶことができます（「■点灯時間の設定」参照）。

※オートライトOFFのときも① ボタンを押すと発光します。

本機を振ると「カラカラ」と音がすることがあります。これはオートライト機能のためのスイッチ（金属球）が内部で動くための音で、故障ではありません。

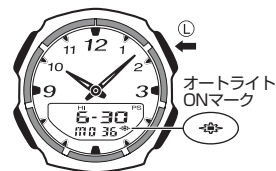
■ 時計を傾けて発光させる ～オートライト機能～

オートライトは、ボタンを押さなくても暗いときに時計を傾けるだけでライトが発光する便利なフルオートライト機能です。

※明るいときは、自動発光しません。

暗い場所で時刻などを見るときに大変便利です。オートライト機能では、どのモードのときでも、時計を傾けるだけでライトが約1.5秒間または約3秒間発光します。

準備：時刻モードのとき、① ボタンを約2秒間押し続けて、オートライトON（オートライトONマーク点灯）にします。



※オートライトONのとき、① ボタンを約2秒間押し続けるとオートライトOFF（オートライトONマーク消灯）に戻ります。

※オートライトのON/OFF設定は、時刻モードのときのみ行なえます。

● ライトを発光させる



※オートライト機能を使用するときは、時計を「手首の外側」にくるようにつけてください。

※文字板の左右（3時～9時方向）の角度を±15°以内にしてください。15°以上傾いていると発光しにくくなります。



〈ご注意〉

- 直射日光下では発光が見えにくくなります。
- 発光中に①ボタン以外のいずれかのボタンを押したり、アラームなどが鳴り出すと発光を中断します。

〈オートライトご使用時の注意〉

- オートライトを頻繁に使用すると電池の持続時間が短くなりますのでご注意ください。
- 時計が服の袖に隠れるようにつけると、明るいときでもオートライトが点灯することがあります。
- 時計を傾けたとき、ライトの発光が一瞬遅れることがありますが異常ではありません。
- ライト発光後、時計を傾けたままにしても、発光は約1.5秒間または3秒間のみとなります。
- バッテリーインジケーターがレベル3になると、自動的にオートライトOFFになります。
- 時計を「手首の内側」につけていたり、腕を振ったり、腕を上へあげたりしても発光することがあります。オートライトを使用しないときは必ずOFFにしておいてください。
- ※時計を「手首の内側」につけるときはできるだけオートライトをOFFにしてご使用ください。
- 静電気や磁気などでオートライトが動作しにくくなり、発光しないことがあります。このときはもう一度水平状態から傾けなおしてみてください。なお、それでも発光しにくいときは、腕を下からふりあげてみると発光しやすくなります。

■ 点灯時間の設定

(1) セット状態にする

時刻モードのとき、① ボタンを約2秒間押しします

⇒ 「秒」が点滅します。

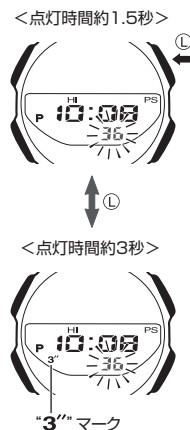


(2) 点灯時間を選ぶ

① ボタンを押します

⇒ ① ボタンを押すごとに約1.5秒間と約3秒間が切り替わります。

※ 約3秒間のときは、「3」マークが点灯します。



(3) セットを終わる

① ボタンを押します

⇒ 点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。



ストップウォッチの使い方

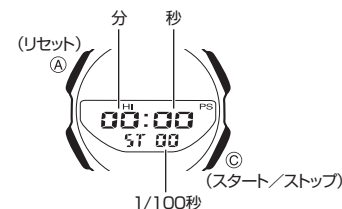
「操作のしくみと表示の見方」にしたがい① ボタンを押して、ストップウォッチモードにします。

ストップウォッチは1/100秒単位で59分59秒99（60分計）まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に0に戻って計測し続けます。

■ 計測のしかた

ストップウォッチモードのとき、② ボタンを押します

⇒ ② ボタンを押すごとに計測がスタート/ストップします。



★計測終了後① ボタンを押すと、計測値が0に戻ります（リセット）。

● 通常計測

② → ③ → ①
スタート ストップ リセット

● 積算計測

② → ③ → ④ → ⑤ → ①
スタート ストップ 再スタート ストップ リセット

※ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずに② ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

デュアルタイムの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたい **ⓑ** ボタンを押し、デュアルタイムモードにします。

デュアルタイムとは、現在時刻とは別に海外時刻などもう1つの時刻をセットできる機能です。

※デュアルタイムの「秒」は基本時刻の「秒」と連動しています。

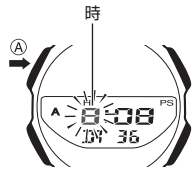
※基本時刻を24時間制にしているときは、デュアルタイムも自動的に24時間制で表示されます。

■デュアルタイムのセット

(1) セット状態にする

デュアルタイムモードのとき、**Ⓐ** ボタンを約2秒間押しします

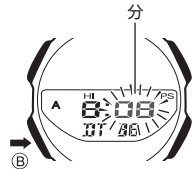
⇒「時」が点滅します。



(2) セット箇所を選ぶ

Ⓑ ボタンを押しします

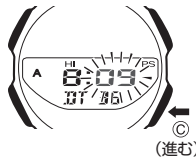
⇒ **Ⓑ** ボタンを押すごとに点滅箇所が「時」⇔「分」で移動しますので、合わせたい箇所を点滅させます。



(3) 点滅箇所のセット

Ⓒ ボタンを押しします

⇒ **Ⓒ** ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進みます。
※押し続けると早送りします。



(2)～(3)の操作を繰り返して、デュアルタイムを合わせます。

※「時」のセットのとき午前 (A) / 午後 (P)、または24時間制にご注意ください。

(4) セットを終わる

Ⓐ ボタンを押しします

⇒点滅が止まり、セット完了です。
※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

(4) セットを終わる

Ⓐ ボタンを押しします

⇒点滅が止まり、セット完了です。
※針のシンクロ修正が開始されます。
※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

<シンクロ機能>

デジタル部の時刻を修正すると、アナログ部も連動して修正されます。

※針の修正は、デジタル部の修正に合わせて時計回り（正転方向）に送られます。

※針の修正は、デジタル部の修正時刻によって時間がかかります。

※針の修正中は、ライト点灯やアラーム・時報の報音は行いません。

a.～b.の操作を繰り返して、時刻・カレンダーを合わせます。

※「時」のセットのとき、午前 (A) / 午後 (P)、または24時間制にご注意ください。

※「年」は2000～2099年の範囲内でセットできます。正しくセットすると、自動的に曜日算出されます。なお、カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外の修正は不要です。

時刻・カレンダーの合わせ方

以下の操作は時刻モードで行ないます。

充電切れなどで、時刻やカレンダーが合っていないときは、以下の方法でセットします。

デジタル部とアナログ部の時刻を同時に修正するとき、デジタル部の時刻を先に修正してください。

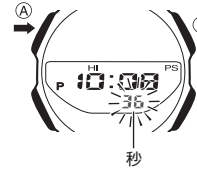
■デジタル部時刻・カレンダーの合わせ方

(1) セット状態にする

時刻モードのとき、**Ⓐ** ボタンを約2秒間押しします

⇒「秒」が点滅して、針が止まります。

※秒が点滅しているときに **Ⓐ** ボタンを押すと、ライトの発光時間を切り替えることができます（「点灯時間の設定」参照）。



(2) 秒合わせ…30秒以内の遅れ/進みの修正

時報に合わせて **Ⓒ** ボタンを押しします

⇒「00秒」からスタートします。

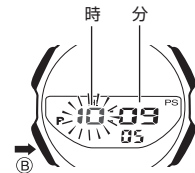
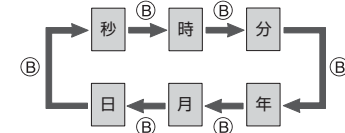
※秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは1分繰り上がり「00秒」になります（時報は「時報サービス117番」が便利です）。



(3) 「時刻・カレンダー」合わせ

a. **Ⓑ** ボタンを押しします

⇒ **Ⓑ** ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動しますので、合わせたい箇所を点滅させます。



■アナログ部（針）の合わせ方

アナログ部の時刻とデジタル部の時刻が合っていないときは、以下の操作で合わせてください。

準備：「操作のしくみと表示の見方」にしたい **Ⓑ** ボタンを押し、ハンドセットモードにします。

(1) セット状態にする

ハンドセットモードのとき、**Ⓐ** ボタンを約2秒間押しします

⇒表示が点滅して、針が止まります。



(2) アナログ部を合わせる

Ⓒ ボタンを押しします

⇒ **Ⓒ** ボタンを押すごとに時計回りに1/3分（20秒）ずつ進みますので、アナログ針を合わせます。

※押し続けると早く進みます（針は逆方向には進みません）。



★針の自動早送り

Ⓒ ボタンを押し続けて早送り中に **Ⓐ** ボタンを押すと、ボタンから手を離しても針が進み続けます。
※自動早送りは時計が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。

(3) セットを終わる

Ⓐ ボタンを押しします

⇒点滅が止まり、セット完了です。
※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。
※操作のタイミングにより、針が少し遅れることがあります。このようなときは、もう一度セット状態にしてから針を1ステップか2ステップ進めてください。